

高校生 合同出前講座

奈良県建設業協会は11月11日、三宅町の県立高等技術専門校で「高校生出前講座」を開催、奈良商工高校建築工学科30人、奈良南高校建築探求科1人、高等技術専門校から18人が参加して、鉄筋の組立、圧接、測量の体験をそれぞれ行いました。



各業界の職人から学ぶ

令和7年11月11日
県立高等技術専門校

専門の業界から職人を招き、高校生に仕事のやりがいや楽しさを実感してもらおうと実施している取組み。鉄筋は関西鉄筋工業協同組合、圧接は関西圧接業協同組合、測量は奈良県測量設計業協会が協力しま



鉄筋

ひとつとして同じものがない仕事



圧接

鉄筋をつなぎ合わせる



測量

工事を始める前の重要な仕事

した。
体験を始める前に関西鉄筋工業協同組合の辻浩一さんは「けがのないよう、それぞれの仕事について少しでも理解を深めてもらえれば」と呼びかけました。
鉄筋の組立は現場によって仕様がかわり、ひとつとして同じ組立がないと言います。辻さんは「ものが出来上がれば、鉄筋は見えなくなる。どんな仕事なのか、理解は難しいと思うが、自動化が難しい人の手

の技術に寄るところが多い仕事、その分やりがいがあると話しました。
圧接は鉄筋をつなぎ合わせる仕事、測量は工事が始まる前の重要な工程。それぞれの職人が自身の仕事の大切さを生徒に訴えました。

体験した奈良商工高校の稲垣優希さん(17)は「圧接が楽しかった。ひとつの仕事に多くの職人さんが関わっていることを知った。」「佐々木壮馬さん(17)は「鉄筋の巻きつけや軸をぶれないように組み立てるのが難しかったが、普段できないことを体験できた」とそれぞれ感想を話しました。

奈良商工高校、奈良南高校、
高等技術専門校が参加



建設重機を体験

油圧ショベル



令和7年度 高校生対象 夏休み 就業体験

奈良商工高校、奈良南高校が参加

令和7年8月26日
三田市の研修センター



学校ではできない体験

高校生に建設業の仕事体験をしてもらう。8月26日、兵庫県三田市の三田建設技能研修センターで「夏休み就業体験」が行われました。奈良県建設業協会主催。当日は奈良商工高校の建築学科、奈良南高校建築探求科の2年5人が参加しました。体験した生徒からは「新しい知識を学びたい」などの意見が聞かれました。
建物の正確性を保つ基礎となる型枠作業、油圧ショベルなどの建設重機体験などを組み合わせたプログラム。毎年この時期に実施されています。
型枠作業では「慣れない手つきで釘を打ち込む作業、底面に対して垂直に型が立っているかをおもいで見る作業などを実施。塚元建設計画員(60)は「機械化、自動化が進む建設現場でも手作業、人間の感覚で行う作業もある。型枠もそのひとつと生徒に説明しました。」

重機体験では油圧ショベルで土を掘る作業、円筒を掴み移動する作業のほか、高所作業車に乗り、高さ約12メートルの世界を知る体験も。建設重機体験した奈良南高の竹本美羽さん(17)は「けがをしないように、普段は見ることがない、型枠の仕組み、重要性を学べて楽しかった」と話しました。引率した奈良南高山田路雅教諭は「他校との交流経験がこれから生きてくる」とがれば、また奈良商工高の鶴川奏斗教諭は「教育現場だけでは体験できない実技を学べて良かった」と話しました。建設業界では就業者の高齢化が進み、若年層の確保を図ることが業界の持続可能性を図る取組みが進められています。



高いところも大丈夫

高所作業車



正確さが要求される

型枠の組立